

ヤマムログループ 代表 山室 智司氏

interviewer 頭取 高橋 祥二郎 長浜支店長 根尾 裕之(取材時)

木材の資源循環からバイオマス発電、アグリ事業へ。
スピードと情熱、柔軟な思考で事業領域を広げる。

「やりたい」と感じたことに素早く挑む柔軟さ。山室智司代表の事業への思いが反映されたヤマムログループの動きは、常に熱くスピーディーだ。その広範囲な事業は「地域の持続可能性のために」の思いに貫かれている。



ヤマムログループ代表 山室 智司(やまむろ・さとし)氏
1977年生まれ。96年、株式会社サンファミリーに入社。グループ各社の要職を経て2013年、ヤマムログループ代表に就任。ブラジル留学経験を生かした既存概念にとらわれないグループ運営に取り組み、新たな事業展開を続ける。好きな言葉は「スピード&スマイル」。

時代に先駆けた資源循環事業が
バイオマス発電事業につながる

高橋 事業領域の幅の広さに驚きました。「一片の木材も無駄にしない」を合言葉に、木製パレットの製造や木質廃棄物リサイクルを手掛ける「山室木材工業」を中心に、人材総合サービスの「サンファミリー」、長野県で住宅建材の加工事業を営まれる「よしもとプレカットセンター」といった多様な事業を展開されてきたヤマムログループさん。2012年

に設立された「いぶきグリーンエナジー」では木質バイオマス発電事業を、昨年設立の「いぶき水力発電」では姉川の水力発電事業をと、最近では「電力の地産地消」を目指した再生可能エネルギー事業分野に進出されています。

山室 当グループの事業は、木材、人材、エネルギーの3分野に大別できます。最近では農園芸事業も始めましたが、原点は何といつても木材に関わる事業。1967年の山室木材工業創業から取り組んできた物流資材の製造・販売事業は、運送事業者からのニーズに対応して多様なパレットを提供することで強みを発揮し、特に木製パレットでは日産2500台と国内最大規模を誇っています。

高橋 84年からは、建築等の木質廃材を製紙等の原料に再資源化するリサイクル事業に進出されました。当時はまだ、循環型社会の概念がなかった時代ですね。

山室 祖父で創業者の山室弘は、時代に先駆けて資源循環に着目し、リサイクルプラントの自社開発や木質廃材入手のために奮闘しましたが、

すぐには受け入れられなかったようです。現在の再資源化事業では、上質なチップは製紙原料のパルプ等に、中級は建築用ボードの原料に生まれ変わりますが、それ以外はボイラーの燃料にしかならず、ロスを出さずに使い回すことが課題でした。これが、いぶきグリーンエナジーのバイオマス発電事業につながっていきます。

「電力の地産地消」の普及は
地域全体へシナジー効果をもたらす

高橋 木材事業とエネルギー事業には、そんな関連性があったのですね。

山室 9年ほど前の年初挨拶で「発電事業をやるう」と父で先代の山室廣造が唐突に呼びかけた時は、誰もが驚きました。いったい何から始めたらいのか。電力についての基礎知識もない私たちに、事業運営もままならず、翌年にはリーマン・ショックがあったことも影響し、しばらく停滞状態でした。しかし、2011年、東日本大震災の惨状の前に、当時すでに病床にあった父が「従来の発電所のような大規模集中型発電に頼らず、発電と消費が地域内で完結する分散型発電を普及させなくては、この国の持続可能性はない」と言いました。その時、私たちはどんな苦難があったとしてもバイオマス発電を事業化しよう



毎時3,550キロワットの発電能力を持つ「木質バイオマス発電所」



国内最大規模の生産を誇る「木製パレット」

と誓ったのです。父が亡くなる数週間前のことです。

根尾 発電所と電力消費地が遠く離れている集中型発電は送電ロスが大きいほか、災害等で停止した場合は東日本大震災で経験したような多大な影響も



「木質バイオマス発電所」中央操作室にて運転状況を監視するオペレーター(手前)と、いぶきグリーンエナジー(株)清水国行発電部長、山室智司グループ代表、高橋頭取、根尾支店長(後列左から)



バイオマスボイラーを熱源にした「木造温室ハウス」。3棟のハウスでは、完熟マンゴーが栽培されている

懸念されます。

山室 分散型発電、つまり電力の地産地消なら、送電ロスも少なく、既存の電力供給が途絶えた場合の緩衝にもなります。そのうえ、燃料の木質廃材を自社でまかなう私たちなら、低コストでバイオマス発電ができ、燃料価格変動の影響も受けません。地域貢献の面でも、事業性の面でも私たちがやらなくてはと、父の遺志を継ぐ思いで全力を注ぎ、震災の翌年には、「いぶきグリーンエナジー」を設立。15年の1月にはバイオマス発電所の運転開始にこぎつけました。現在の発電能力は毎時3550キロワット。米原

栽培をするなど、地域に即した活性化プランを行っておられます。

流域地域の活性化を目指す 姉川ダムの水力発電事業

高橋 いぶき水力発電の水力発電事業についてお聞きしましょう。今年12月から運営が始まるそうですね。

山室 姉川ダムは、利水を目的としない県営の治水ダムでしたが、再生可能エネルギーの導入を進めるため、本来の運用に支障がない範囲で、タービン式の発電を行うこととなりました。予定最大出力は、1300世帯の消費電力をまかなえる毎時900キロワット。下流にはもつと大きな水力発電所もありますが、既存の電気事業者以外が取り組む事業として大きな意義があります。県の公募案件で、発電事業の経験が豊かなイビデ

市の世帯数の半分にあたる、約6500世帯の電力をまかなうことができます。

高橋 どのような仕組みで電力を地域へ還元されるのですか。

山室 大手の新電力会社を経由して多くの地元企業に供給しています。地域外へ送電される既存の電力事業者への売電は当初から考えず、ヤマムログループが地元企業を訪ねて、販売先を紹介しました。エネルギーの地産地消でなければ、この事業に取り組み意義はありません。**高橋** ヤマムログループさんは、バイオマス発電事業を「地域における森林資源利用拡大モデル」の中核に位置付けておられますね。

山室 発電事業によって、未利用材を燃料化できれば、山の環境整備や森林保護も進みます。発電所に必要な雇用の創出とともに、地域全体に活力をもたらすことでしょうか。その思いから、間伐材を燃料に使うバイオマスボイラーを熱源にした、マンゴーのハウス栽培事業を、「森林資源利用拡大モデル」の一環として始めました。

木材とバイオマスを活用した マンゴーとニンニク栽培

高橋 南国の果物マンゴーを寒冷な湖北地域で育てよう。そんな発想から新

たに取り組まれたのが、農園芸事業ですね。3棟のハウスが建ち並ぶ長浜市石田町は石田三成生誕の地として名高く、そこで栽培されるマンゴーとして、「みつなり」の名前を付け、ブランド化を図っておられます。なぜ、マンゴーだったのですか。

山室 グループ会社のサンファミリーでは、日系ブラジル人を中心とした従業員を800人程雇用しています。そのマネジメントを行うにあたり、語学を取得するため、私はブラジルへ留学していました。現地ではマンゴーが名産で、毎日のように食べていたのですが、帰国後、日本での価格や流通量の少なさに驚きを感じ、「マンゴーをもっと日本に広めたい」と考えて5本の苗木を栽培しました。さらに苗を増やそうと考えていた時に、与志本プレカットセンターで生産する杉やヒノキを柱にした「木造温室」を発案しました。従来の鉄骨ハウスよりも低コストで建てられるうえ、敷地の広さに応じて温室の大きさを調整できるなどのメリットがあり、木造温室を商品化して事業として取り組むようになりました。

高橋 木造温室による木材需要の創出も、「森林資源利用拡大モデル」につながるのですね。ヤマムログループさんの

ンエンジニアリング株式会社との共同提案が採択されましたが、審査にあたっては、電力の地産地消や流域地域への貢献度が認められました。当グループでは2030年に売り上げを6割増加させる中期計画が進行中ですが、エネルギー分野をさらに拡充し、直接売電ができる仕組みづくりも進めたいですね。

外国人従業員に配慮を注ぐ 業務請負・人材派遣事業

高橋 「人材総合サービス」のサンファミリーでは、日系ブラジル人を中心に多くの外国人従業員を雇用し、さまざまな企業の業務請負や人材派遣を手付けられています。

山室 サンファミリーでは業務請負にウエイトを置き、請け負った事業の調査から、具体的な運営方法の提案を行い、

人員配置の適正化や作業の効率化を図っています。派遣先の企業や請け負った事業の内容により、労働環境はさまざまですが、特に心掛けているのは、従業員の思いに寄り添い、いかに気持ち良く快適に働けるかに気を配ることです。**根尾** 外国人従業員の子供が通える学校も自主運営されておられます。従業員への深い気遣いが伝わります。

山室 日系ブラジル人の子供がブラジルに戻ると、日本での就学が認められず、小学3年生の子供が1年生からの勉強をやり直すこととなります。そんな不都合をなくすため、ブラジル政府認可の学校を設立しました。授業はポルトガル語が中心で、ヤマムログループ各社からの拠出金で運営。縁あって当グループで働く従業員の顔を思い浮かべながら、業績の厳しい時でも「学校だけは閉めたくない」と

事業は多様なように見えて、全てが「一つのストーリー」に貫かれています。ハウスの近くでは、ニンニクも栽培されています。

山室 バイオマス発電でお世話になったヤンマーグループが、農業特区で取り組まれている事業にヒントを得ました。ニンニク栽培は寒冷な砂地が適している、石田町もその条件にぴったり当てはまります。収穫されたニンニクは乾燥室で乾燥させた後、出荷します。乾燥室の熱源にも、木質廃材を燃料とするバイオマスボイラーを活用しています。「木材」は私たちの事業の要です。

高橋 滋賀県最高峰の伊吹山の麓にある、過疎に悩む奥伊吹地域でもニンニク



完熟マンゴー「みつなり」。今年から本格的に商品化され、2020年に5千個の出荷を目指す

い」と頑張ってきました。**高橋** グループ内の工場で働く外国人従業員の昼食もグループで用意して、費用の半額を補助されているそうですね。誠意を尽くして接する。「人が主役の仕事」を成功へ導くヒントが、そこにあるように思えます。どの事業でも意思の決定が早く、発想が柔軟ですね。

山室 「スピード&スマイル」が私たちのモットーです。時代と世界の動きに心を開き、柔らかな思考で「やりたいこと」をやる。事業の領域は広くてもグループの思いは常に一つ。しなやかに果敢に挑戦する。だから、未知の分野にも臆せず、にチャレンジできてきたのだと思います。**高橋** ヤマムログループのチャレンジが、今後、湖北地域にどんな風を吹かせてくれるか、非常に楽しみです。本日はありがとうございました。

グループ理念

私たちヤマムログループは常に地球環境を考え、自然と産業の共存を目指し、社員全員が創意を結集し、新たな事業への挑戦を続け社会発展に努めます。また、経済情勢の変化と共にお客様のニーズも多様化する中、私たちはお客さまの声にスピードとスマイルでお応えできるグループを目指します。

会社概要

ヤマムログループ

- 山室木材工業株式会社/米原市大野木1751-5
事業内容/物流資材の製造販売、木質リサイクル等
- 株式会社サンファミリー/長浜市石田町502-1
事業内容/業務請負、人材派遣、人材コンサルタント等
- 株式会社サンファミリー東海/米原市大野木1751-5
事業内容/業務請負、人材派遣、人材コンサルタント等
- 株式会社与志本プレカットセンター/長野県佐久市塚原1545-1
事業内容/木造住宅のプレカット、木材の生産販売等
- いぶきグリーンエナジー株式会社/米原市大野木1751-5
事業内容/木質バイオマス発電事業
- いぶき水力発電株式会社/米原市大野木1751-5
事業内容/水力発電事業
- 株式会社キャリア・トゥエンティワン/長浜市石田町1185
事業内容/不動産の賃貸・管理、洋菓子の製造販売
- 株式会社みつなりのさと/長浜市石田町1150-10
事業内容/農産物の生産・加工・販売、民宿の経営

沿革

- 1967年 山室木材工業を創業。木製パレットの製造販売を開始
- 1977年 山室木材工業株式会社を設立。山室弘が代表取締役役に就任
- 1984年 自社開発によるリサイクルプラントで高品質チップの生産を開始
- 1990年 株式会社サンファミリーを設立
- 1994年 山東工業団地に山室木材工業株式会社本社工場を移転
- 1996年 株式会社キャリア・トゥエンティワン設立
- 2007年 独立行政法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO) より「地域バイオマス熱利用フィールドテスト事業」にバイオマス乾燥施設が採択される
- 2008年 株式会社与志本プレカットセンターを子会社化
- 2012年 いぶきグリーンエナジー株式会社設立
- 2014年 「木質バイオマスボイラーを熱源とした木製温室栽培による滋賀県湖北地区のアグリビジネス活性化事業」を開始
- 2015年 いぶき水力発電株式会社を設立
株式会社みつなりのさとを設立

